

コースの概要と人材養成のねらい

一定の経験を持つ現職教員を対象とし、教員集団をリードし、保護者、地域住民等と協働して、学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められる優れたリーダーシップを発揮できる教員を養成します。そのため、一定の経験を持つ現職教員に、これまでの教職経験で培った実践的知見と先進的な教育研究に基づく理論的な知見を統合させ、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を体得させます。

配当学年	開講期	(DP1) 学校教育の発展的理解	(DP2) 指導内容の高度な理解と実践的指導力	(DP3) 多様な子どもに対応できる指導力	(DP4) 教職力量をみがく力
		・社会における学校の役割と専門職としての教員の在り方を理解し、学校教育の発展に寄与する自己の役割を俯瞰的に捉えることができる。 ・学校安全と危機管理、人権教育、多文化共生などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。 ・学校の実情や特徴を分析・把握し、より良い学校づくりに向けたアクションプランを実施・評価できる。 ・学校づくりに求められるリーダーの役割と行動を理解し、それを所属組織の状況に応じて発揮できる。 ・学校組織課題の改善のためのアクションリサーチの理法と技法を会得し、それを発揮できる。 ・学校組織の成長をデザインし、それに必要とされる戦略を構想・実行できる。	・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。 ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。 ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。 ・これからの教師に求められる資質・能力を深く考察し、自身の専門領域に関わる理念や枠組み、動向をもとに、自らプランを策定、提案、実行することで自身の強みを伸長させることができる。	・学校園における生徒指導上の諸課題について、多様な個人的・社会的背景をふまえて多面的に理解し、理論的・実践的に考察できる。 ・各学校種の諸課題に関して、発達段階や個人の特性・障害、状況に応じた指導ができる。 ・児童生徒の多様な課題に対し、学校内外の人材や組織と協働して、社会的包摂に向けて支援・援助を行うことができる。	・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。 ・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。 ・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方、コンプライアンスの重要性を再認識し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。 ・学校管理職、教育委員会指導主事等、校内のミドルリーダーとして、学校における人材育成、教員間の連携や協力の理念や枠組み、動向を把握し、それを進展させるための実践を創発できる。
M2	T4	新しい時代の教育政策と学校経営2[1]			学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造[2]
	T3			社会的包摂に関する実践的探究[2]	多職種協働による組織マネジメント[2] 校内研修の持続的発展[2]
	T2	新しい時代の教育政策と学校経営1[1] 学校組織開発[2]			外国にルーツのある子どもの教育III[2] 通常学級におけるインクルーシブ教育の実践[2]
	T1	人権教育の課題と実践[2] 学校安全と危機管理[2]	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開[2]	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開[2]	
M1	T4	チーム学校の実践的展開[2] スクールリーダーのマネジメント[2]	授業におけるICT活用の理論と実際[2]	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援[2]	学校におけるコーディネーション[2] 学校に対するコンサルテーション[2]
	T3	●学校改善のためのアクションリサーチ[2] グローバルスタディーズの展開[2] 外国にルーツのある子どもの教育II[2]			実践課題研究I・II[計4]
	T2	●スクールリーダーシップの理論と実践[2] 学校経営と学級経営の理論と実践[2]		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践[2]	学校実習科目[計10]
	T1	外国にルーツのある子どもの教育I[2] インクルーシブ教育の理論と実践[2]	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践[2] カリキュラムの編成原理とマネジメント[2]	学習指導の実践的展開[2]	生徒指導と教育相談の実践的課題[2]

※科目名の〔〕内の数字は単位数

研究科共通科目
太字は必修
研究科共通科目
(FS対応科目)
太字は必修
コース科目
必修
コース科目
選択